

私たちの『音×恩おくりプロジェクト』とは

「たくさんの方がとうきょう市にきて世界中に光を！」をテーマに次々と恩送りをして
みなさんと共に世の中を豊かにしていくプロジェクトです。

※このプロジェクトの発起人証

ShastaLine 松澤亜希子
Duna Music 小池久仁子

※なぜ、このプロジェクトをやるのか？

これまで私たちが受けてきた恩恵はともじかないけれど返しきれないものばかり。。。
恩返しするだけでなく「恩送り」として、私たちが恩恵を受けて嬉しい気持ちになったあなた、
誰かに小さな親切をしてくれたら、
その人がまた誰かに。。。

小さなことでもいい。この「恩送り」に参加してくださったら。。。
そうしたら、きっと世界中に受ける変化が訪れるはず
それこそが、私たちが受けてきた恩恵への地球規模の最大の恩返しになるのではと考えました。
そしてこれが子供たちへの最高のギフトとなるはずなのです

※どんなことをやるのか？

【 私たちの主な事業（チャレンジ）内容 】

- ⇒従来の枠を超えた各種コンサート企画運営
 - ⇒子供たちの未来を創造する絵画展・学校・施設等へのアウトリーチ活動
 - ⇒大人たちが深く毎日を送るためのセミナー・ワークショップの企画運営
 - ⇒国際的感性を養う次世代型リーダー育成事業
 - ⇒世界で活躍するアーティストと子供達との音楽祭の開催
 - ⇒専攻アーティストに向けた独自の自立支援全力サポート
 - ⇒アーティストを育てるコンサートの企画開催
- その他、異業種や障害の枠を突破し恩恵を超えた事業展開

※ご協力のお願い

この社大でワクワクするプロジェクトは私たちの力だけでは進行できません
出来ること何でもいいです

どうか力を貸してくださいませんか？

言葉を越えた音楽でチャレンジするこのプロジェクトに
みなさんもう一歩に参加して頂けましたら幸いです

♪♪♪ 音×恩おくりプロジェクト実行委員会 ♪♪♪

— 代表あいさつ 私たちの想い —

私たちの関係は、もともと東松山の小中学校の音楽授業
中学時代は音楽会で共に時間を過ごし
その後、長い年月を経て2015年通じて再会しました
子供の頃は、僕等も同様に
今では、世界で演奏するピアニストとそれを支えるトレーナー
そんな私たちがから音楽へ



このプロジェクトを始動させて今一番思う事。

それは、たくさんのお出でで生かされているのだという事。

家族、友人、先輩、、、たくさんの方々の愛情によって、このプロジェクトは育っています。

子供のように、これからも大きく育って欲しい。

そしてこのプロジェクトを通じて、人々がお出で、共に笑い、泣き、心の通う場所になって欲しい。私はそのために愛を注ぐと思います。

皆様のお力がこのプロジェクトの何よりの糧となり、大きな光の輪となって広がっていきま
すように。
ピアニスト/Duna Music School 講師

Duna music 代表 小池久仁子



地元へ帰ってきて仲間や、街の方々を杯を交わすこと、挨拶を交わすこと、
至福の瞬間です。僕們になっても童心に戻れる。明日からまたがんばろう！と思える。それ
こそがきっとふるさと。この街が子供達にとっても誇りであり続けてほしい。その想いから
プロジェクトを考案しました。そして日本中の街がそうなることを。このありがとの
リレーで地球全体を巻き込んでいきたいのです。言葉を越えた音楽の力を借りて、皆さんと
共に、大人たちが真剣にチャレンジする姿を子供達に魅せていきませんか？
どうぞ、あなたのできるカタチでお力を貸してください。よろしくお願ひ致します。

ゴルフコーチ/パーソナルトレーナー/メンタルコーチ

ShastaLine 代表 松澤亜希子

私たちと一緒にこのプロジェクトを盛り上げてくれる方を募集しています

お問合せ
音×恩おくりプロジェクト実行委員会
oskaren397@gmail.com



On-Okuri Project
音×恩おくり
プロジェクト
～完結しないありがとうリレー～

このプロジェクトがまた産まれるずっと前から
私たちはたくさんのメッセージのやり取りをしていた

時々、先輩は「ありがとう。」と送ってきた

その『。』を見るとなんだか少し寂しい気分になる

だから、聞いてみた

「なんで。つけるの？」

「より感情を込めたい時の文末につけてるよ」

ふう〜ん…

そうだったんだ…

他の文章の頃の『。』は温かき気がするのに

やっぱり『ありがとう。』は寂しく思えた

ある時、ラジオで面白い話を聞いた

世界に一つだけ「ありがとう」という言葉を使わない国があるらしい

理由は、「ありがとう」ということで感謝の気持ちだが

そこで一度、終わってしまうからだという

それから私たちの中で

ありがとうにだけは

『。』はつけないルールができた

そして私たちは、考えた

どうしたら

この「ありがとう」

今までの「ありがとう」をもっと伝えることができるだろう

考え抜いた結果、生まれたのが

この『音×恩送りプロジェクト』

私たちの「ありがとう」を

言葉に乗せた音に乗せて

みなさんへ贈ります

だから

みなさんの「ありがとう」も

どうか、次の方々へ

あなたのカタチで贈ってください

今、ここから始まる音×恩送りプロジェクト

たくさんのありがとうを音に乗せて

世界中に送る！

ShastaLink Akiho Matsuzawa

満員電車の中

乗り込んできたおばあちゃんに
一人の少女が八こみ笑顔で席を譲った

おばあちゃんは
笑顔でお礼を言った

周りの人たちにも
その優しさが瞬時に広がった

その車両に居合わせ

優しい気分になった青年は
電車を降りると

落ちていた定期入れを拾って届けた

探していた定期入れが見つかった連絡を受けた女性は

その日、職場へ向かう途中
職場にいける花を購入した

女性の活けたその花をみる職人たちに笑顔が伝染する

彼らの創った楽器が

今日また誰かの手元に届く

そこからまた新しい

音楽がはじまるかもしれない

そんな小さな事でいい

私たちは『きっかけ』をつくりたい

今朝

電車の中で席を譲った少女は

夕べ

音×恩おくりコンサートで

一番後ろで聴いていた女の子

ShastaLink A.Matsuzawa